

## 大相撲鑑賞雑記帳&lt;2021年1月&gt;

白鵬ほか何名かの力士の新型コロナウイルス感染が発表されたことから、PCR 検査を全力士に対して実施した結果、5名の感染者が判明した。陽性判定が出た力士及びその濃厚接触者の休場が定められ、九重部屋・友綱部屋・荒汐部屋・宮城野部屋の全力士が出場できないことになった。

幕内の休場者は、怪我で休場する鶴竜を含めて7名、十両では9名という異常な事態になった。

休場者が多いことから、取組数が減り、上位と下位の取組が増えたり、様々な副次現象も発生した。

おまけに両横綱が不在で、大関はカド番が多いので、力士間の序列はあてないようなもので、まさに戦国時代の様相。誰が勝ち残るのかを想像することすら難しい状況になったが、勝ち残ったからと言っても次代を担う勇者となり得るのかは、更に不透明である。

今場所の土俵を見て気がついたことを羅列してみる。

**大栄翔**の相撲は一貫して変わらず、前進と突き押し、すり足で進む脚の運び、そのテンポとリズムが光っていた。敗れた相撲でも、そのスタイルは貫かれており「迷いのない相撲」が感じられた。豊富な稽古量に支えられた体は、多少の揺さぶりには絶えられる足腰になっており、13勝2敗の優勝につながった。

突き押しの相撲は、腕力もさることながら手のリズムと足の運び、腰と膝の構えが大事な要素になるのだが、大栄翔の相撲にはそれが強く感じられた。しかし、ほぼ8割がたの取り口に見られた足の構えが気になった。

突き押しの前進をするときに、つま先立っている。足の裏の全面を土俵につけて(ベタ足)いないことで、前進や突き押しの圧力が弱まってしまう。また、足裏の僅かな面積に全圧力がかかってしまうことから、怪我にもつながりやすい。同じような癖を持っていた元大関千代大海が現役時代にしばしば指摘を受けていたが、結局怪我が元で最上位の番付に達しなかったと聞いたことがある。

次のステップに駆け上がるにあたって、大きな課題となるだろう。

**阿武咲**は9勝6敗に終りはしたが、立ち合いの鋭い踏み込みが復活し、前傾姿勢が保たれていることと、手足の運びのバランスが良く、体調回復を感じさせた。頭を上げないことと足の運び方とが、叩きに負けない守備力として有効になっていることを感じさせる。少しずつ番付位置を回復して行くのが楽しみである。

**照ノ富士**は、「大関に戻りたい」と公言して奮闘を続けている。先場所の小結での13勝2敗に続き、今場所は関脇で11勝4敗を上げた。先場所と相撲内容の上で比較すると、今場所は膝の曲りが少なく、腰高になっており、場所が進むごとにそれが顕著になっていた。元々腰高だった力士が膝を痛めたことで曲がりにくくなっているのだから、気をつけないと再び怪我につながる可能性がある。伊勢ヶ浜部屋仕込みの「まわしのとり方」が身についてきて、「まわしを引いたら引きつける」の連続動作が有効になっていた。何番か腰高で乱暴な力業で勝った相撲があったが、これで墓穴を掘らぬように今後注意する必要がある。

関脇三場所目となった**隆の勝**は、落ち着いた相撲で「自分の相撲スタイル」を貫き、ベテランの関脇のような雰囲気醸成していた。低い重心から繰り出すおっつけは、相手の動きを封じる効果があり、攻めとしても役に立っている。稽古量の多さは、体のハリと前に倒れにくくなったことでよくわかる。今場所の9勝6敗もさることながら、6場所連続勝ち越しは見事で、力がついてきたことを示している。

立浪部屋の**明生**は、きちんとした手つきなどの土俵上の所作と、引きやはたきのない正直な相撲で注目してきた。はたかれて負けることはあっても、はたいて勝つことがないのが、自分の相撲力を向上させている。低い腰の構えと、わきのしまった腕の使い方が素晴らしい。

同じ部屋から後輩力士が入幕してきたので、それも刺激になっているのだろうか風格が見えてきた。7枚目で8勝7敗ではあるが、5場所連続勝ち越しで幕内上位に定着した感じがする。来場所さらなる飛躍に期待したい。

**志摩ノ海**は前頭10枚目まで上がってきたが、先場所に引きつづき9勝6敗を上げて壁を突き破った感がある。低い姿勢を保ち、前まわしを引いて頭を付ける相撲は、相手にとって脅威になっている。立ち合いの鋭い踏み込みも身についてきたので、上位と戦っても踏ん張れる力がついてきたように感じる。

鳴り物入りで上がってきた琴ノ若は、跳ね返されて15枚目まで下がったが10勝5敗を上げた。しかし、その相撲の大半が、立ち合いが受け身でしかも下がりながらまたは下がってからという取り口が多く、「うまい具合に勝ってしまった」という相撲ばかりが目立つ。立ち合いに鋭く踏み込む攻撃力が出来ないと、上位では通用しないだろう。

一方、今場所新入幕の翠富士は伊勢ヶ浜部屋伝統の技能相撲で、171cm 114Kgの小柄ながら9勝6敗を上げて技能賞を手にした。これまで「力士の大型化」「強くなるためには体を大きくしろ」と言われてきた相撲界で、近年「適度なサイズ」で「きちんと稽古で鍛えた」力士が次々と誕生し、ダウンサイジングが進んでいるのは望ましいことと思う。

#### 相撲界のこの一年の予測

現在の二横綱の内、ひとりは数場所以内に引退し残り一名も今年前半が山ではないかと見る事が出来る。さて、入れかわって横綱に昇進する者がいるだろうか、と思って大関陣を眺めて見るが、下表のような状況。

場所	2019-11	2020-1	2020-3	2020-7	2020-9	2020-11	2021-1	2021-3
負越	豪栄道 高安		貴景勝			正代 朝乃山	貴景勝	?
勝越	貴景勝	貴景勝		貴景勝 朝乃山	貴景勝 朝乃山	貴景勝	朝乃山 正代	?
カド番				貴景勝			正代 朝乃山	貴景勝
優勝	白鵬	徳勝龍	白鵬	照ノ富士	正代	貴景勝	大栄翔	?

天下国家を窺うどころか、日々を過ごすのだけで精一杯の状況に近い。

「次の横綱を作らなければならない」と焦るあまり、甘い判断基準で大関昇進や横綱昇進が進められる可能性が大きい。それにより、安定性を見極めずに昇進させることになり、次の問題の種となりかねない。

ここは踏ん張り所、先を見据えることを大前提として昇進の基準を見直し、「より厳しい人選」を行うことが将来のために大事であろう。

以上